

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

藤田守彦 会長 年度テーマ
=先人に感謝、今日から、そして明日へ=
ホップ、ステップ、ジャンプ!!

例会場 名古屋クレストンホテル

TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

プログラム・クラブ会報広報委員長 岩田 宏



創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 藤田 守彦
幹事 田島 陽介

事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp

HP <http://www.nagoya-marunouchi-rc.org/>

第837回 例会No. 21 平成 24年12月6日(木) 晴

- ローターソング 「君が代」「奉仕の理想」
- 出席報告 会員45名中28名出席
- 出席率 66.66% 出席計算人数42名
- 修正出席率 11月22日 95.34%

会長挨拶

藤田守彦



今日は「私が心がけている事」を御話したいと思います。

この中でもゴルフをされる方が多く見えますが、最近ゴルフ場での「服装の乱れ」が問題化しております。冬場はそうでも有りませんが、夏の場合は特に目立ちますね。私のホームクラブでは「ドレスコード」をクラブハウスの中、カートに掲示して啓発活動を展開しています。委員会でも議論になり、当然ながらゴルファーとしての最低のマナーは守らせるべきだが、あまりきつく言うと、御客様が来なくなるとか。もっと厳格にしてゴルフ場の質を高めるべきとか。意見が錯綜し結論が出ず結果「曖昧さ」だけが残る傾向にあります。

ふと思ったのですがロータリーも同じ様な事が有りますね。たとえば会員増強を一つとっても、無理にするとロータリーの質を問われるとか、会員を増強しなければ維持継続が難しいとか。これもまた意見が錯綜して結論が出ず曖昧さだけが残ってしまいます。しかるべき方が結論を出しても良い様な気はしますが。

ここにみえる方は経営トップの方々ばかりで、様々な場面にて結論を出される方ばかりと拝察しますが、僕は間違った結論を出して失敗した事がロータリーの中であり、内容については何時か御話をする機会もあるかと思っております。それ以来「一方を聞いて沙汰せず」を心がけています。人間どうしても人の好き嫌いなど偏見があり、一方の話を聞いて結論を出しがちで、やむを得ない所もあるかと思っております。

仕事は当然ですが、ことロータリー活動においては、様々な意見を聞き、話をして適切な結論を出す事を、心がけて行きたいと思っています。

更に「真実かどうか」も含めて。

ニコBOX

●本日は年次総会です。会長エレクトの西川 博さん、副幹事の加藤久明さん、どうぞよろしくお願い致します。
藤田、磯部、岩田、堀江、柴田孝一、田島、成田、矢野、吉田、後藤、若原、植木、小菅、永井、水野、渡邊、松尾、和田(敬称略)

安江さん 誕生祝いの果物ありがとうございました。79歳になりました。観音様と孫悟空、いつまでたっても妻の手のうち。

西川さん 本日は年次総会です、よろしくお願いします。

本日合計 44,000円

年次総会

1. 次年度役員・理事組織(案)承認の件

会長	役員	西川 博
副会長	役員	後藤 徹
会長エレクト	役員	永井克昌
直前会長	役員	藤田守彦
幹事	役員	加藤久明
会計	役員	磯部 徹
S.A.A.	役員	長谷川龍伸
副幹事	理事	矢野雄嗣
副会計		田島陽介
会計監査		岡田守功
職業奉仕委員長	理事	岩田 宏
社会奉仕委員長	理事	大岩とよみ
国際奉仕委員長	理事	亀井克典
親睦活動委員長	理事	若原正幸
新世代奉仕委員長	理事	高山 進

承認



2. クラブ内規・細則の修正承認の件

承認

田中作次 RI 会長メッセージ

(ROTARY JAPAN WEB より抜粋)

世界でよいことをするために

親愛なる朋友ロータリアンの皆さん、2012 年は間もなく終わりを迎えようとしています。私たちが自ら定めた目標とその進捗状況を確認する時期です。目標に向けて、着実な成果を挙げているでしょうか。

目標は、高く、しかしながら、現実的であるべきだと私は強く信じています。目標は達成できる範囲内ではなく、多少の努力を要するものであるべきです。新たなチャレンジに挑めば、自分が予想もしなかった能力に気づくことがあります。

全地区で導入される未来の夢

2013 年 7 月 1 日、私たちは、組織全体の新たなチャレンジともいうべき、「未来の夢」(ロータリー財団の新しい補助金モデル)を全地区で導入します。この未来の夢では、私たちが持てる限りのリソースをもって、最大限に「世界でよいこと」をするという、シンプルかつ重要な目標に向かって私たちは進んできました。そして、この目標達成のために、諸経費を減らし、説明責任、透明性、地元での管理を改善し、最も大きな影響をもたらせる分野に私たちの奉仕を集中しようと努めています。

簡素化された補助金構成のもと、特に奨励されているのが、ロータリーの重点分野における奉仕です。重点分野には「平和と紛争予防/紛争解決」、「疾病予防と治療」、「水と衛生」、「母子の健康」、「基本的教育と識字率向上」、「経済と地域社会の発展」の 6 つがあります。

これらは、世界各地のロータリアンがすでに長年にわたり活動を続けてきた分野です。そして、私たちにはこれらの分野での持続可能性のあるプロジェクトを実施してきた経験や実績があります。

持続可能なプロジェクトで「世界でよいこと」を

長期的に大きな影響をもたらすプロジェクトを強調する未来の夢では、「持続可能性」に主な焦点が絞られます。簡単に言えば、持続可能なプロジェクトとは、ロータリーの資金をすべて投入した後も永く世界に恩恵をもたらすプロジェクトです。そうしたプロジェクトの最たる例には、ポリオ撲滅活動があります。ポリオが撲滅されれば、その後も恒久的に、ロータリーの活動の恩恵が続きます。また、ポリオ・プラスから学んだ教訓はほかの活動にも応用できるでしょう。真に持続可能性のあるプロジェクトでは、計画と協力、長期的な視野、そして地域社会の人々を恩恵の受け手としてではなく、奉仕のパートナーとみなす取り組みが必要です。

未来の夢を受け入れることは、これまでよりもっと野心的な視野を受け入れるということです。すなわち、世界の重要問題に長期的そして真剣に、継続する方法で取り組もうとしているのです。これは私たちの奉仕にとって新しい考え方であり、このアプローチこそが、「世界でよいこと」をするためにロータリー財団の能力を一層高めてくれるものと信じています。

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎12月13日(木) 第838回例会 外部卓話

「認知症について」黒川医院 院長 黒川 豊 様

◎12月22日(土) 第839回例会 例会変更

「クリスマス家族会」18:00～名古屋クレストンホテル

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ロータリー財団の始まり

「一人のロータリアンの夢が現実に」②

(ROTARY JAPAN WEB より抜粋)

.....先号からの続き.....

ロータリーの創始者の偉業に敬意を表す

ロータリー財団の発展の礎となったのは、ロータリーの創始者ポール・ハリスの偉大な業績に敬意を表し、その死を悼むロータリアンたちの思いでした。『ロータリアン必携』(1995 年)の『ロータリー財団』には、「1947 年 1 月 27 日に、ポール・ハリスがイリノイ州シカゴの自宅で亡くなりました。70 か国以上 30 万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼みました。しかし、ポール・ハリスの死は、財団の転換点になりました。(中略) ポールの逝去で、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになりました。財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団強化のために寄付するよう要請しました。その反響は素晴らしいものでした。翌年の 7 月までに、米貨 130 万ドル以上が寄付され、永年の目標である 200 万ドルの寄付が射程距離に入ってきました。1947 年には最初の財団プログラムが実現されました。それは、高等研究奨学金と呼ばれるもので、1 年目は、米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の 18 人の若い人たちが選ばれ、他国でそれぞれの専門分野を勉強しました。当時は、この人たちはポール・ハリス・フェローと呼ばれていましたが、最初の国際親善奨学生でした。」とあります。その後、教育プログラムに、人道的プログラムに、このロータリー財団は貢献しています。

花が開き実を結んだ

このシリーズの引用に度々登場する『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』には、「希望の財団」として、ロータリー財団に 1 章を取っています。そして、その結びには、次のように書かれています。「ロータリー財団が、これほど効果的なのは、資金と人を組み合わせるからである。アーチ・クラフはこのように述べている。『金だけでは、大したことはできない。個人の奉仕は、金がなければ無力である。この 2 つが組み合わせられれば、文明への天の恵みとなることができる。』

ポール・ハリスは 1934 年にクラフに出した手紙にこう書いている。『私たちは、あなたがこの運動に何年も注いできた努力以外に、おそらくこれといった努力をすることなく、いつか、突然自分たちが何か非常に重要なものになっているの気づくような気がする。』

ロータリー財団への支援が世界的ではなかったときに書かれたこの言葉は、先見的であった。クラフは 1951 年に亡くなったが、彼が大事にしたロータリー財団はすでに確かな現実になり始めていた。しかし、自分のビジョンについて最も楽観的だった日のアーチ・クラフ自身でさえ、「小さなひらめき」と彼が呼んだアイデアがこれほどの力を持つと想像したであろうか？」

ロータリー財団は、多くのロータリアンによって、大きく花開くことになりました。特に、日本のロータリアンの果たす役割は、ロータリー財団の大きな支えになっています。ロータリー財団に寄付をするとき、ロータリー財団の資金を使ってさまざまな奉仕活動をするとき、アーチ・クラフの「小さなひらめき」が、その第一歩であったことを思い出してください。

引用文献 『ロータリー日本五十年史』『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』『ロータリーの友』2004 年 11 月号から